

令和 6 年 6 月 21 日現在

機関番号：33943

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2022～2023

課題番号：22K20290

研究課題名（和文）保育・教職を志す女子大学生の初期キャリア形成：時間的展望に着目して

研究課題名（英文）Early career development for women's university students who aspire to become childcare workers and teachers : Focusing on the time perspective

研究代表者

長谷 守紘 (NAGAYA, Morihito)

岡崎女子大学・子ども教育学部・講師

研究者番号：90962738

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）： 保育・教職を志す女子大学生のキャリア成熟と時間的展望との関連を検討した結果、未来に対する肯定的な態度や現在と未来の連続性がキャリア成熟に影響を与えていることが明らかとなった。また、新人期においては、業務負担の重さによって心身ともに反応が生じ現在に対する否定的な態度が高まることや力量不足によって心理的な反応が生じ未来への見通しや期待をもてなくなることが示唆された。現在に偏りがちな時間的展望を過去や未来に広げ、キャリア形成を促進する支援法として、ロールレタリングが有効であることが明らかとなった。また、地域子育て支援として親子教室の実施を通して、保育者としての専門性を向上させることが示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

保育・教職を志す女子大学生にとって、理想の保育者・教育者になるために興味・関心をもって情報を集めたり活動したりすることや明るい希望に向かって計画を具体的に立てることが重要であり、そのためにはロールレタリングや親子教室の運営といった活動が有効であることがわかった。それらの知見を保育者・教育者の養成に取り入れていくことができる。また、新人期において、現在や未来に対する否定的な態度につながる業務負担の重さや力量不足に対して、支援の手を入れていく必要性が示唆された。保育者・教育者の職に就いた若者が、持続可能で幸せな職業生活を送るための一助となることを期待したい。

研究成果の概要（英文）： This study examined the relationship between career maturity and time perspective in women's university students aspiring to become childcare workers and teachers. The results showed that a positive attitude towards the future and continuity between the present and the future influence career maturity. New childcare workers and teachers experienced physical and mental reactions due to the heavy workload, which led to an increased negative attitude towards the present. A lack of ability caused psychological reactions and they lost sight of and hope for the future. Role-lettering was found to be an effective support method for expanding time perspectives, which tend to be biased towards the present, to the past and future, and promoting career development. It was shown that holding parent-child classes improved the expertise of childcare workers.

研究分野：心理学

キーワード：時間的展望 キャリア 女子大学生 ロールレタリング リアリティ・ショック 地域子育て支援

1. 研究開始当初の背景

公刊統計を分析した高木ら(2022)によると、公立学校において精神疾患による離職出現率は20代前半が大きく、リアリティ・ショックや職業選択の再設定などを背景に想定している。同様に、私立幼稚園では20代で離職する者が多い(高木,2018)。保育士の離職についても、2017年時点で離職率は9.3%であり、その理由は転職が3割強と最も多く、結婚(30.1%)、体調不良(24.1%)と続く(厚生労働省,2021)。リアリティ・ショック、結婚や出産・育児などのライフイベント、保育職以外の他職種就業の選択可能性をきっかけとする離職が多いとされている(神戸ほか,2016;香曾我部,2018;松浦,2020)。このような背景を踏まえ、本研究では保育・教職を志す女子大学生がリアリティ・ショック、ライフイベント、職業選択の再設定等と折り合いをつけ、持続可能で幸せな職業生活を送るために養成段階からどのように初期キャリアを形成していったらよいかという問いを追究していく。

上記の課題にアプローチする際に、女性の生き方における職業キャリアをどのように展望していくかという個人の心理的な側面が重要になってくる。これまでの時間的展望に関する国内外の研究を概観した千島(2021)によると、ポジティブな未来に目を向けることが教育的な成果にとって重要であることや未来の私は今の私の延長線上にあるという認識を高めると未来志向の行動が促されることが明らかになっている。また、未来があるから頑張ることができる、過去があるから今があるという時間的連続性(石井,2015)の観点からの検討も進み、過去受容が未来への希望を強める可能性が指摘されている(石川,2013;長谷,2020)。

しかし管見した限りでは、教師・保育士のキャリア研究において時間的展望を扱った研究は少ない。半澤(2021)は、教員養成大学の学生が社会への移行期における地域間移動が時間的展望に与える影響を分析した。保育者の転職を分析した香曾我部(2013)は、自己形成プロセスの一つとして将来を展望する段階を見出している。松浦(2020)は、保育士のツールとして「保育士キャリア・パースペクティブ(職業生活の主観的見通し)」を調査し、マップの形で視覚化して離職防止・就業継続支援に役立てる研究に取り組んでいる。これらの研究動向を踏まえ、保育・教職キャリア形成には時間的展望が関連しており、初期キャリアの形成を促進するために時間的展望の側面から働きかけることができるのではないかと考え、本研究の研究主題を設定した。

2. 研究の目的

以上の課題意識を踏まえ、本研究の目的を以下のように設定した。

第一の目的は、保育・教職を志す女子大学生のキャリア成熟と時間的展望との関連を検討することである。未来への現実的でポジティブな未来展望や過去と現在、現在と未来との連続性がキャリア意識に大きく影響を与えていると予想した。また、大学卒業後の新入期における保育・教職のリアリティ・ショックと時間的展望との関連についても検討を加えることにした。

第二の目的は、現在に偏りがちな時間的展望を過去と未来に広げ、自己の連続性を高めることでキャリア形成を促進する教育法・支援法を創出することであった。具体的には、ロールレタリングを書くことと受け取ることが及ぼす効果について検討を行った。また、保育者養成大学の主催する地域子育て支援としての親子教室の実施が、保育者としての専門性の向上に及ぼす効果についても検討することにした。

3. 研究の方法

1) 研究1

保育・教職を志す女子大学生の時間的展望がキャリア成熟に与える影響を検討するため、保育者・小学校教員養成校に通う女子大学4年生63人を対象にして、日本語版青年時間尺度-時間的態度、時間的連続性尺度、キャリアレディネス尺度短縮版で構成される質問紙調査を行った。

2) 研究2

保育・教職のキャリア初期におけるリアリティ・ショックと時間的展望との関連を検討するため、新人保育者・小学校教師12名を対象として、日本語版青年時間尺度-時間的態度、時間的連続性尺度、保育士リアリティ・ショック尺度で構成される質問紙調査を実施した。

3) 研究3

これまでキャリア教育や適応支援として実践された時間的展望を形成する手法を整理し、未来の自分に宛てた往信だけでなく、未来の自分から現在の自分への返信を含めたロールレタリングの技法を用いて、女子大学4年生57人を対象にして、介入研究を実施した。また、女子大学を卒業して保育・教職(小学校)に就いた12名を対象者にして、1年後の自分に向けた手紙を受け取り、手紙を読み終えた感想を回収して、自由記述を分析した。

4) 研究4

地域子育て支援としての親子教室の実施が保育職を志す女子大学生の専門性の向上に及ぼす効果について検討するため、女子大学3年生6名を対象として、親子教室を計画する段階、準備する段階、実行する段階、振り返る段階の振り返り記述を分析した。

4. 研究成果

1) 研究 1

重回帰分析の結果、未来に対する肯定的な態度や現在と未来の連続性がキャリア成熟に影響を与えていることが明らかとなった。現在と未来の連続性をもっている学生は、理想の保育者・教育者になるために、興味・関心をもって、情報を集め、活動していると考えられた。また、未来に明るい希望を感じるからこそ、そこに至るまでの計画を具体的に思い浮かべることができるのだと考えられた。一方で、過去への態度がキャリア成熟に与える影響は様ではなく、過去に対する受容度が関連していることが推察された。

これらの結果から、キャリア関心性を高めるためには個人が思い描いている未来をより現実的なものとするような働きかけること、キャリア計画性を高めるためには未来に明るい希望をもつことができるように働きかけること、キャリア自律性を高めるためには将来の職業に対する現在の不安を解決する方法を共に探りつつ、解決できるという効力感を高めるエンパワーを行う働きかけが有効であることが示唆された。また、肯定的であれ、否定的であれ、自分の過去を受け止め、現在と未来へつなげていけるように働きかけることがキャリア成熟の支援には必要であると推察された。

2) 研究 2

各下位尺度間でいくつかの有意な相関関係がみられた。リアリティ・ショック（以下、RS）ギャップと時間的展望との関連について、仕事の量的な多さ、時間的な切迫感、制御不能感等の業務負担の重さが現在に対する否定的な態度と関連していた。また、責任を伴う多様な職務に対処する力量が不足していると自分自身についてギャップを感じることで未来への否定的な態度と関連していた。RS 反応と時間的展望との関連について、焦り、不安、落ち込み、自己否定など心理的な内的反応、身体の不調や投げやりな態度といった生理的な表出反応ともに、現在・未来に対する否定的な感情や評価との関連がみられた。RS ギャップとRS 反応との関連について、業務負担の重さは内的反応、表出反応ともに関連がみられた。力量不足は内的反応と関連していた。

これらの結果から、業務負担の重さによって、心身ともに反応が生じ、現在に対する否定的な態度が高まっているのではないかという仮説を立てた。さらに、力量不足によって心理的な反応が生じ、未来への見通しや期待をもてなくなっている新人保育者・教師の状態が推察された。

3) 研究 3

未来の自分に宛てた往信に加えて、未来の自分から現在の自分への返信を含めたロールレタリングを作成する効果について検討を行った結果、卒業期で在学4年間を振り返ったり、就職先が決定したりとさまざまな要因がある中ではあるが、保育・教職の職業生活に対するポジティブな未来展望や未来と現在の時間的つながりが形成され、キャリアに対する自律性や計画性が促進された。一方で、現在の悩みが大きい場合、将来のキャリアを自律的に切り拓いていこうとする心構えが低下していた。現在の悩みの大きさは、未来に希望を見出すことを困難にしているがゆえであると考えられた。ロールレタリングが与える影響は個人によって異なることに留意しつつ、キャリア形成を促す手法として一定の効果があることが示唆された。

一方で、手紙を受け取る効果については、自己受容に関する記述（「自分のままでいいと勇気づけられた」等）、現在に対する肯定的態度に関する記述（「自信につながった」等）、キャリアに対する肯定的な未来展望に関する記述（「これからの人生、保育士を楽しんでいきたい」等）がみられた。過去の自分からの手紙を受け取ることによって、現在の自分に対する受容が進み、未来展望やキャリア意識について肯定的な影響を受けることが推察された。

4) 研究 4

保育者養成大学に通う女子学生が、地域子育て支援活動として親子教室の運営に実際に携わる中で、「活動を計画、実行する力」「多様性を考える、想定外に対処する力」「チームで保育する力」「保護者に対応する力」といった現代の保育者に求められる専門性の向上が見られた。「活動を計画、実行する力」では、親子教室の活動を計画、準備、実行する中で、参加者の立場になって考えるという姿勢が高まった。この姿勢は、保育現場においても、子どもや保護者に実態に即して活動を計画し、実行することにつながると考えられた。「多様性を考える、想定外に対処する力」では、年齢差・個人差等による興味・関心や取り組むスピードの違いを事前に想定して対策を練っておくことの重要性に気づいた。また、子どもの実態に応じて臨機応変に対応する力が求められ、多様なニーズを抱えた子どもたちを包摂するインクルーシブ保育へとつながっていくと考えられた。「チームで保育する力」では、保育をスムーズに計画・実施するためには、チームメンバーの役割分担を明確にし、情報を共有しながら進めることの重要性に気づいた。チームで進めることによって一体感と達成感を得た一方で、その難しさも感じる機会となったと考えられた。「保護者に対応する力」では、子育て支援に不安をもっている学生は多いが、それを実際に経験できる貴重な機会となった。実際に保護者と関わることによって、子育て支援の基本的技術の1つであるカウンセリングスキルを高めていく必要性を感じ取ったと考えられた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 長谷 守紘	4. 巻 57
2. 論文標題 地域子育て支援活動を通じた保育者の専門性の向上：大学における親子教室の取り組みを通して	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 岡崎女子大学・岡崎女子短期大学 研究紀要	6. 最初と最後の頁 57-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 長谷 守紘、高木 亮、清水 安夫、神林 寿幸、高田 純、藤原 忠雄	4. 巻 6
2. 論文標題 『公立学校教員採用選考試験の実施状況について』より考える「教師不足」	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 学校改善研究紀要	6. 最初と最後の頁 15～27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.51006/jsira.6.0_15	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 長谷 守紘	4. 巻 6
2. 論文標題 保育・教職を志す女子大学生のキャリア形成を促す手法：ロールレタリングを用いた実践	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 岡崎女子大学・岡崎女子短期大学「子ども好適空間研究」	6. 最初と最後の頁 39-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 長谷 守紘	4. 巻 5
2. 論文標題 保育・教職を志す女子大学生の時間的展望がキャリア成熟に与える影響	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 岡崎女子大学・岡崎女子短期大学「子ども好適空間研究」	6. 最初と最後の頁 49-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 長谷 守紘
2. 発表標題 新人保育者・教師におけるリアリティショックと時間的展望との関連
3. 学会等名 日本学校改善学会2024愛媛大会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 長谷 守紘
2. 発表標題 保育・教職を志す女子大学生の時間的展望がキャリア成熟に与える影響
3. 学会等名 日本学校改善学会2023岐阜大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 長谷 守紘
2. 発表標題 保育・教職を志す女子大学生のキャリア形成を促す手法：ロールレタリングの実践
3. 学会等名 日本学校メンタルヘルス学会第26回大会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------